短歌

末武　有二　選

庭隅の草生ふ中の茗荷竹つんつん尖り葉のほぐれゆく　安永　守住　孝子

伸ばしたる枝の広さは輝きて樹齢を誇る神社の大楠　惣領　島田　廣子

立ち止まり振り返り見る四車線街路樹続き都会になった　広崎　大原　郁

青磁色昔使った小箪笥小花模様は昭和の名残　赤井　米澤　さわ

逝ったのにその名を呼べば何処からかニャーと出てくるそんな気がして　木山　本田　龍子

正面も反面までも人の世を教えてくれし母は米寿に　木山　赤城　香織

木々青し熊本城は地震の傷残しながらも威風堂々　広崎　日野ヒロ子

初夏の空の青さにうぐいすのひたすらな声透りて聞こゆ　惣領　垣野　幸一

昨日まで母が育てし矢車草紅白咲きて墓前に供ふ　惣領　甲斐　道夫

名も知らぬ野の道に咲く小花にも綺麗と云って後振り返る　宮園　島　みつき

芝桜辺り一面咲き誇り気分爽やか晩春の午後　赤井　増岡　伸禧

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野　全平　選

清明節「紅芋タルト」届きけり　赤井　永樹美智子

マスク外し手に受けている花吹雪　江津　髙田芙佐子

大わらび探しに登る俵山　宮園　米村　盛子

山裾のここも捨て畑雨しとど　菊陽　佐藤　澄世

ニラ一把百円玉の落ちる音　木山　佐藤　光子

一夜にて屋根白銀に霜の朝　熊本市　坂崎ケイ子

ヘラ鮒を計るメジャーの手元かな　木山　友田大公望

遠花火限界集落うずくまる　津森　匿名希望

柿若葉きらり真球の雨が降る　熊本市　境　眞木子

一句鑑賞

子は今を最も生きてレモネード　越智　友亮

川柳

布田川左門　選

『お題』　自由詠

投票に行けば張り紙「無投票」　新　成人

そびえ立つ震災記念新庁舎　遠めがね

謎めいたヘリの墜落自衛隊　やぶみらみ

鳥の目や山忘れじの地震かな　草　千里

『お題』「引越し」または「人工知能」

引越し好きゴルフ帽子の亡父に問ふ　辻　恵美子

カモ一家パッと引越しシベリアへ　増岡　酔粋

したくても引越しできぬ地震国　萩国　勝吉

物価高あの世へ二人で引越そう　前田　真久

次回のお題　「白寿」

投稿は投稿者の住所、**電話番号を必ず記入し**、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。

益城の文化財　掘発益城

町文化財保護委員会

杉堂

梅屋天神

杉堂公民館の南側道路沿いに菅原天神があります。こけむした屋根の小堂には、彫刻が施され彩色の跡が見られます。本堂の裏に「此堂木山町梅屋鎮守也、本年移築して祭祀する天満宮」との墨書が見つかっており、木山町の梅屋にあった守り神をこの地に帰したことがわかります。

木山氏最後の城主である信連の子・信正は、木山城陥落の折、2歳であったため、家臣の竹崎筑後に抱かれ難を逃れました。その後、木山氏の御用商人梅屋瀬左衛門のもとで保護され、信正は、木山四郎左衛門と名乗り、梅屋の長女と結婚。加藤清正時代に六ケ庄木山郷の大庄屋を命ぜられ、細川藩政になってもその子・市兵衛が同様の待遇を受けました。木山氏はその後、馬場姓を名乗り、藩の御用